

## 令和7年度学校評価(学校評議員)

北海道札幌工業高等学校 全日制

No.	項目	具体例	R3	R4	R5	R6	R7	R3~R7推移
1	スクール・ミッション	スクール・ミッションは、本校生徒合っていると思いますか。	—	—	—	—	4.3	
2	教育活動	本校の教育活動は、地域や生徒、保護者のニーズを把握していると思いますか。	4.2	3.6	3.8	3.8	4.3	
3	教育環境	施設・設備等は本校生徒の学校生活に満足できるものとなっていると思いますか。	4.0	2.8	3.6	3.8	2.5	
4	特色ある教育活動	工業高校の特色を生かした魅力ある学校づくりに取り組んでいると思いますか。	4.2	3.8	4.2	4.0	4.0	
5	地域連携	PTA、同窓会等と積極的に連携していると思いますか。	3.8	4.2	4.4	3.8	4.0	
6	学校行事	学校行事は、充実していると思いますか。	4.2	4.2	4.0	3.6	4.3	
7	本校の誇り	生徒は、礼工の生徒であることを誇りを持っていると思いますか。	4.0	4.0	4.0	3.6	4.0	
8	開かれた学校	開かれた学校づくりに取り組んでいると思いますか。	4.2	4.0	4.0	3.8	4.3	
9	情報発信	学校PRは、中学校や外部の方に十分伝わっていると思いますか。	4.0	3.4	3.2	3.0	2.8	
10	ものづくり	工業高校としてものづくり、作品づくりに熱心に取り組んでいると思いますか。	4.2	4.4	4.4	4.2	4.8	
11	資格・検定	資格取得・検定試験に熱心に取り組んでいると思いますか。	4.0	3.6	3.6	3.8	4.0	
12	生活習慣	あいさつやマナーに対する指導ができていると思いますか。	4.6	3.6	3.6	3.8	4.3	
13	校則	生徒の身だしなみ(髪型、服装)が適切であると思いますか。	4.4	3.8	4.2	3.8	4.8	
14	交通安全	交通安全指導(街頭指導・交通安全教室)は、役に立っていると思いますか。	4.4	3.8	4.0	4.0	3.5	
15	いじめ	いじめ防止、いじめへの対応が適切に行われていると思いますか。	3.8	3.2	4.0	3.4	3.5	
16	生徒会活動	本校生徒は、生徒会行事へ積極的に参加していると思いますか。	3.6	3.8	4.0	3.8	4.3	
17	特別活動	部活動は活発に行われていると思いますか。	3.6	4.2	4.2	4.0	4.5	
18	進路指導	進路指導は、社会の要望に応えたものになっていると思いますか。	3.6	3.6	3.8	3.8	3.5	
19	環境整備	校舎内外の整備・美化に積極的に取り組んでいると思いますか。	4.0	3.6	3.6	4.0	3.5	
20	安心・安全	全教職員が危機管理意識をもち、保健・安全管理に取り組んでいると思いますか。	4.0	3.6	3.6	3.6	4.3	
21	保護者対応	学校は保護者との信頼関係を築き、説明責任を果たしていると思いますか。	3.4	3.8	4.2	4.0	3.8	
22	学校Web	学校Web、情報発信(Instagram)は、充実していると思いますか。	4.0	3.8	3.8	4.2	3.3	
23	DXハイスクール	半導体重点枠の採択を受け、地域と連携し、スクール・ミッションの達成に向け取り組んでいると思いますか。	—	—	—	—	4.0	
24	今年度反省及び学校課題等について							

・インターシップやキャリア教育など、様々な体験をする教育がなされており、将来自分は何をやりたいか、どんな職業についてみたいかなど、具体的にイメージが持て、そのためにどんな勉強が必要かを意識して過ごすことができ、素晴らしい教育をしていると感じています。ただ、残念なことにあまり外部にPRされておらず、知らない人も多いのではないかと残念に感じています。(私自身も評議員になるまで知りませんでした…)中学生やその保護者へ伝えられるような機会を増やしていけたらいいのかもしれない。

・既にご対応の予定かと思いますが、情報設備(教室内プロジェクターなど)は近いうちに導入改善すべきである。

・働き方改革がまだ不十分で、「ものづくり・資格・検定・担任業務・情報共有不足」など教員負担になっていると感じられた。負担と効果を検討し、数年その分掌をやめて様子を見るなど負担軽減に繋げていくことが大事である。

学校間の付き合いから部活動顧問・協会・連盟・競技大会運営などの担当(分掌)がやめられない実態を『工業高校全体で考える』べきである。分掌数を減少させた上で、1年間の中でバランスを取るのではなく、数年間でバランスを取る仕組みが考えられる。上記の学校評価が高い項目は、その項目の努力・負担に対して高く評価をしたということであり、続けて欲しいという意味である。

上記の学校課題の解決で、結果的に生徒の教育の質が向上すると考えられる。

・改革への意識変革

学校評議委員会会議でも話題になりましたが、学科名の変更など、ダイナミックな改革をどのように進めるかが、DX採択後の大きな論点といえます。学内のコンセンサスを形成するために、アンケートや会議等で御校の魅力や改善点について教員から意見を収集し、アセスメントをした点は良かったと思います。ただ、どの学科も「学科名の変更」には慎重論が多く、「現状を維持したい」という意識が見受けられました。引き継ぐべきところは引き継ぎ、しかし産業構造や社会の現実に応じて、さらに未来を見通して変えるべきところはダイナミックに変えていく。このメリハリや覚悟が必要です。教職員集団で、スクールミッションに基づき、目指すべきビジョンをしっかりと共有し、歩を進めていく意識と姿勢がより高くなることを期待しています。

・入学から卒業までの期間でもものの作り手としての自覚や責任感がしっかりと養われた子どもたちを見て感服しております。しかし親御さんたちが把握していないことが多く、せっかく生徒たちが取り組んでいるものを知らなかったと言う方が多く見受けられます。子どもたちの努力の重さをわかっていない方も多く、家庭内の話しだけでは伝わらないのか、学校からの話しでやっと気付かされているような印象もありますので、学校から直に保護者に伝える手段をしっかりと作るべきです。メールやホームページ等からのコミュニティ等、先生の声が少しでも多く響く場所を設けてください。また、進路を希望する中学生にも詳細がわかる工夫がもっと必要です。まったくわからないまま受験した生徒もおります。学校の良さをオープンにしてください。

・学科間連携や地域連携のさらなる促進と見える化

各学科の特色と強みを活かし、各学科が連携をすることでより魅力的な取り組みが生まれると思います。また、そうした取り組みを、より社会へ見える化し発信していくことが求められます。Instagramでのライブ型配信はとても魅力ですから、そうしたリアルタイム感を大事にしつつ、今後は中学生や中学校教員により届く形で工夫すると良いかと思いました。また、地域から愛される学校、地域に開かれた学校づくりも重要となってきます。近隣の学校や大学、また社会教育関係機関、町内会などと幅広く交流や連携をすることで、認知度が草の根的に広がっていくのではないかと思います。